

【論文】

若手英語教師が作成するワークシートの分析

望 月 正 道

1. 研究の背景

英語の授業では、新語や新文法項目の導入・練習、リスニングやリーディングでの内容理解、コミュニケーション活動、発表活動などさまざまな場面でワークシートが活用されている。このようなワークシートは、教師が独自に作成するものであったり、市販のものを使用したり、アレンジしたりするものである。市販のワークシート本は、本多(2009)のようにアイデアに富んでいて、教師の活動の幅を広めてくれるものが多い。教師が作成する場合、このような市販本を参考にすることもあろうし、同僚が作るワークシートを模倣することもあるだろう。授業の目的に合った適切な教材を作成することは教師の授業力の一部である。それでは教師はワークシートのような教材を作成する能力をどのように伸ばしていくのだろうか。

英語教員養成課程では、ワークシートの作成方法についてどのように指導しているのだろうか。英語科教育法の中で、教科書や講義でワークシート作成について説明することがあるかもしれない。また模擬授業をさせるときに、学生が作成したワークシートにコメントすることで指導するかもしれない。

英語科教育法の教科書として使用されている9冊(赤松、2018; 岡、2011; 岡田・ハヤシ・嶋林・江原、2015; 木村、2011; JACET SLA研究会、2013; JACET教育問題研究会、2012; 土屋、2011; 村野井・渡部・尾関・富田、2012; 望月、2010)を調査した。まず9冊の目次を見てみると、「ワークシート(ハンドアウト、プリント、配布教材など)」を独立した項目として扱っているものはない。次に索引で「ワークシート(ハンドアウト、プリント、配布教材など)」を調べると、木村(2011)と土屋(2011)で「ワークシート」を索引項目としていることが判明した。木村では、ワークシートについて次のように言及している。帰納的な指導に優れた教師は、課題解決的な授業を構成し英語で授業を行い、「活動の最後に準備していたワーク・シート(work sheet)を用い、簡潔明瞭に必要な文法ルールをまとめます」(p. 121)。このワークシートは、ある活動を行ったあと、

そこで提示された文法事項をまとめて、提示するためのものである。土屋では、文法項目を導入・定着活動をさせた上で、それをコミュニケーションにつなげる例として、情報差(information gap)を作るワークシートA・Bの例を示している。このワークシートは、ある活動を行うために必要な情報を提供するものである。木村と土屋で紹介されているどちらのワークシートも1つの活動のためのものである。このように、英語科教育法の教科書の多くは、ワークシートを独立した指導項目としては扱ってなく、その作成方法について十分に説明しているとはいえない。

英語科教育法の教科書では、1つの活動で使うワークシートについての言及があった。しかしながら、1時間の授業で行う活動のほとんどを扱うワークシートを作成する教師もいる。ウォームアップ、新教材の提示、練習、コミュニケーション活動など授業で行う活動のほとんどについて、その指示や課題がワークシートに書かれていて、その課題を行うことで授業を進行していくことができる。渡邊(2007)は自身が行った高校3年生のリーディングの授業を報告している。この授業は旧課程の英語リーディングの授業で、速読により必要な情報を得たり、要点や概要をまとめることとペア活動により理解した内容を相手に伝えて理解を深めることの2つをねらいとしている。この授業はワークシートに基づいて進めていくが、ワークシートの内容は①語彙の確認、②速読およびTF問題、③ペア活動のためのQuestions、④Reaction、⑤Important/Complicated sentences、⑥Useful expressionsの6つである。①語彙の確認は、10の新語を例文中で下線で示し、枠内の日本語から適切なものを選ばせる形式である。②速読およびTF問題は、時間と語数の表、5つのTF問題から成る。③ペア活動のためのQuestionsは、8つの英語の質問である。⑤Important/Complicated sentencesは、本文中の構文的に複雑な2つの文を抜き出している。⑥Useful expressionsは、定型表現と「thisの内容は？」のように内容理解の質問が8つ挙げられている。渡邊はこのようなワークシートの活動を行うことによって、授業を進行させている。

授業は、その時間の学習到達目標を達成できるような活

動を積み重ねて進行していくわけだが、ワークシートをもとに授業を進めていく教師のワークシートに記載された情報や活動を分析すれば、学習到達目標を達成するために、その教師はどのような指導や活動が必要と考えているかがわかるはずである。しかしながら、筆者の知るかぎり、英語のワークシートを分析した研究はなされていない。

本研究は、若手英語教師が作成するワークシートを分析することにより、その教師が学習到達目標達成のためにどのような活動が必要と考えていたのかを明らかにし、2年半という教員経験によって、それがどのように変化するかを明らかにすることを目的とする。次の3つの研究課題（Research Question, RQ）を設定する。

RQ1：若手英語教師が作成するワークシートはどのように構成されているか。

RQ2：ワークシートは、学習到達目標を達成するように意図されているか。

RQ3：初任3年目と5年目のワークシートはどのように変化しているか。

2. 方法

2.1 研究対象とする教員

研究対象とする教員は、公立高校の英語教員で、ワークシート作成時は初任3年目と5年目である。勤務校は英語教育に力を入れていることで知られ、授業者は、コミュニケーション英語の授業を英語で行っている。ワークシートは学年共通で担当教員の話し合いにより作成している。授業者は、3年目から5年目までの3年間10回の授業研究を行い、指導内容、指導技術などを向上させ、英語教師として成長したことが報告されている（淡路, 2018；小菅・小菅, 2018；高木, 2018；望月, 2018；若有, 2018）。

授業者は、3年目にコミュニケーション英語IIを担当し2学年のクラスを教え、5年目は、コミュニケーション英語Iを担当し1学年のクラスを教えている。

2.2 分析対象授業

本研究では、授業者が教えた3年目の1学期2年生の授業（授業1）と5年目の3学期1年生の授業（授業2）を分析対象とする。

授業1：2014年7月3日 2年A組

教科書：*Prominence Communication English II*（東京書籍）
Lesson 3 Norman Rockwell: An Artist of the People, for the People

授業の目標：以下の4つを目標としている。

- (1) Students will cooperate with each other in pair work.
- (2) Students will tell their partner a summary of part 3.
- (3) Students will listen to their partner and understand the outline of part 3.
- (4) Students will understand what the picture on page 40 shows.

授業の概要：6歳の黒人の少女と彼女を護衛する顔が写っていない4人の男たちの写真についての文章

について、英語のQAをペアで解答した。そのあと、英語のサマリーを作らせ、発表させた。

授業2：2017年1月19日 1年B組

教科書：*Element English Communication I*（啓林館）Lesson 8 The Boy Who Harnessed the Wind

授業の目標：以下の4つを目標としている。

- (1) Students will cooperate with each other in pair work.
- (2) Students will share their ideas about electricity use.
- (3) Students will understand what happened in Malawi.
- (4) Students will understand some of the new words and phrases.

授業の概要：マラウイで風力発電機を作った少年についての文章をもとに、電気がない暮らしについてペアで話す活動、本文のリスニング活動、リーディング活動を行った。

2.3 分析対象ワークシート

本研究は、授業1で作成されたワークシート1（資料1）、授業2で作成されたワークシート2（資料2）を分析対象とする。

2.3.1 ワークシート1

ワークシート1はペアワークができるようにA版、B版の2種類がある。2つはSecond Readingを除いて、同一である。そのため、Second Reading以外は、両者をワークシート1として扱う。これは7つの部分から成る。Warm-up, Vocabulary 1, First Reading without a dictionary, Vocabulary 2, Second Reading, Review, About Ruby Bridgesの7つである。

(1) Warm-up

教科書に載せられているThe Problem We All Live Withという写真を見て、考えたことをワークシートに書き、その後ペアで話し合う。

(2) Vocabulary 1

下の例のように、目標語に下線が引かれた例文と目標語の意味を2つの選択肢から選ぶ形式である。問題は3つある。

例：President Obama was escorted by lots of police officers to the airport.

- a. to go somewhere with someone
- b. to take someone somewhere by protecting or guarding them

(3) First Reading without a dictionary

辞書を使わずに教科書を読み、True or Falseの問題に答える。Fならば、誤っている部分を訂正する。

(4) Vocabulary 2

11の新語が品詞、用例または例文とともに載せられている。まずそれらの語を発音する。次に辞書を引き、意味をMeaning欄に書き込む。新語はintegration⇔segregationのような反意語、violence, violentのような派生語も示されている。

Remember the following words, too!という欄もあり、New Orleans, KKKのような固有名詞やmost likelyのような句の説明がなされている。

(5) Second Reading

The Problem We All Live Withが載せられていて、その中の護衛に①、Ruby Bridgesに②と番号が振られている。A版には1. Who is the girl in The Problem We All Live With?のような奇数の番号の質問が5つ、B版には2. What are ① doing?のような偶数の番号の質問が5つ載せられている。生徒はペアでQA活動を行う。

(6) Review

「S+V+O+C (過去分詞) の構文を使えるようになるう！」というタイトルで、次のような4つの例文と4つの並び替え問題が載せられている。

例：[understood / make / I / Chinese / couldn't / in / myself] when I spoke to Mr. Kim.

→

(7) About Ruby Bridges

写真の主人公であるRuby Bridgesについて150語ほどの英語と6枚の写真で追加の説明がなされている。

2.3.2 ワークシート2

ワークシート2は1版のみで、10の部分から成る。これをワークシート2とする。Can-Do Goals for This Lesson, Warm-up 1, Warm-up 2, First Listening, Vocabulary 1, First Reading, Vocabulary 2, Reading Practice, Second Reading, Further Questionの10である。

(1) Can-Do Goals for This Lesson

これは、この授業の目標を書いたもので、「R 登場人物の気持ちや言動の理由を、文章に則してとらえることができる」のように、リーディング、スピーキング、積極的態度の目標が挙げられている。

(2) Warm-up 1

Warm-up 1は、Step 1と2に分かれている。Step 1では、A火力発電所、Bダム、C風力発電機の写真、D Other waysがあり、それぞれWhat kind of energy do they use?の質問に回答する。Step 2では、I think A uses ..., B uses ..., and C uses In addition, we can use ... to get energy.というヒントをもとにペアで30秒話し合う。

(3) Warm-up 2

Warm-up 2は、Question 1とQuestion 2に分かれている。Question 1は、Step 1と2に分かれている。Step 1では、円グラフが示されていて、80%の部分にJapan, the US, the UK, Korea, Taiwan, etcが入り、20%の部分にLiberia, Congo, Senegal, Malawi, Haiti, Mexico, etc.が入る。What do you think the chart shows?の質問に回答する。Step 2では、ペアでアイデアを共有する。

Question 2は質問自体が空欄になっていて、Step 1からStep 5からなる。Step 1はキーワードを書く。Step 2はペアで1分間話す。Step 3は、振り返り。Step 4はペアを替えて、1分間話す。Step 5は活動の振り返りで、Could you keep talking for one minute?という質問に、

Yes!またはI will try harder next time.にチェックを入れる。

(4) First Listening

CDを聞き、教科書を見ずに、The speaker worked so hard to make the (). のような空欄に適語を補充する問題が3問ある。

(5) Vocabulary 1

ワークシート1と同様に、目標語に下線が引かれた例文と目標語の意味を2つの選択肢から選ぶ形式で、3問ある。

(6) First Reading

ワークシート1と同様に、辞書を使わずに教科書を読み、True or Falseの問題に答える。Fならば、誤っている部分を訂正する。4問ある。

(7) Vocabulary 2

8つの新語の単語、品詞、意味、用例または例文を書きこむ表がある。生徒は辞書で調べて書き込む。表の下には、bring up A / bring A upという句動詞がto care for a child and teach how to behaveのような意味とともに載せられている。

(8) Reading Practice

このパートを音読練習するような指示がなされている。

(9) Second Reading

Step 1-Step 4から成る。Step 1では、Where is he from?のような質問が4つあり、キーワードのみを書き込む。Step 2では、Step 1の情報やその他の情報を用いて、ペアでWilliamを紹介する。Step 3は振り返りで、言えなかった部分を調べる。Step 4は、ペアを替えて、Williamの紹介をもう一度行う。

(10) Further Question

Williamが父親を責めることはできないと言っているが、もし自分がWilliamの立場にいたら、父親を責めるかどうかを理由とともに書く。

3. 分析

3.1 ワークシートの構成

RQ1は、「若手英語教師が作成するワークシートはどのように構成されているか」である。

授業1と授業2のワークシートの構成について分析する。

3.1.1 ワークシート1

ワークシート1は、Warm-up, Vocabulary 1, First Reading without a dictionary, Vocabulary 2, Second Reading, Review, About Ruby Bridgesの7つの部分から成る。Warm-upからSecond Readingまでの活動はすべて教科書の読解を目的にしたものと考えられる。教科書の言語材料を導入し、それが理解できるように、まず概要把握に不可欠な単語の意味を考えさせてから教え (Vocabulary 1)、辞書を使わずに概要をとらえさせる (First Reading without a dictionary)。

次に、意味がわからない単語をなくした（Vocabulary 2）あとで、詳細な部分を含む理解を求める（Second Reading）。Reviewは、S+V+O+C（過去分詞）の文構造を定着させるための並べ替え練習である。About Ruby Bridgesは、このパートの主人公であるRuby Bridgesについての英文を載せているが、これは教科書の発展的活動であり、課題を早く終えてしまった生徒向けに載せられているのではないかと推察される。このようにワークシート1は、言語材料を導入し、理解させることを主眼に置いた構成になっていて、理解したことを定着のために練習したり、産出させたりする要素は含まれていない。Warm-upとSecond Readingはペアワークによる産出活動が含まれるが、理解したことを練習したあとでの活動ではない。

3.1.2 ワークシート2

ワークシート2は、Can-Do Goals for This Lesson, Warm-up 1, Warm-up 2, First Listening, Vocabulary 1, First Reading, Vocabulary 2, Reading Practice, Second Reading, Further Questionの10の部分から成る。

Warm-up 1, Warm-up 2はどちらも教科書の内容について予備知識を与えるものである。Warm-up 1はStep 1と2に分かれていて、Step 2では考えたことをペアで言い合う活動になっている。Warm-up 2は、Question 1とQuestion 2に分かれている。Question 1は、Warm-up 1と同様にStep 1と2に分かれていて、Step 1で考えたことをStep 2でペアで言い合う活動になっている。Question 2は、Step 5までである。これまでと同様に、Step 1で考えたことをStep 2でペアで言い合ったあと、Step 3ではStep 2を振り返り、言えなかったことを調べる時間を設けている。Step 4ではペアの相手を替えて言い合う。Step 5は1分間話し続けることができたかを振り返る。

First Listeningは、教科書の1パラグラフをCDで聞き、3つの文の空欄に単語を補充させる問題である。パラグラフの概要を捉えさせるものである。

Vocabulary 1からSecond Reading, Vocabulary 2までの活動は教科書の読解を目的にしたものと考えられる。教科書の言語材料を導入し、それが理解できるように、まず概要把握に不可欠な単語の意味を考えさせてから教え（Vocabulary 1）、辞書を使わずに概要をとらえさせる（First Reading without a dictionary）。その後、生徒は辞書で新語の品詞、意味、用例などを調べてワークシートに書き入れる。

Reading Practiceは、内容がわかった本文を音読して、言語材料を定着させ、次のSecond Readingでのペアワークの準備をさせていると考えられる。

Second Readingは、英語の4つの質問にキーワードで答えを書かせ、それをもとにオーラルサマリーをさせることを目的としていると考えられる。

Further Questionは、教科書の内容に基づいて、「自分が主人公の立場にいたら」という仮定で、仮定法過去の練習をさせ、定着を意図したものと考えられる。

初任3年目のワークシート1は、主に教科書の内容理解

を促すような活動が中心に作られているのに対し、5年目のワークシート2は、内容理解に留まらず、言語の産出を促す活動も多く取り入れている。

3.2 学習到達目標との関係

RQ2は、ワークシートは、学習到達目標を達成するように意図されているかである。この観点からワークシート1とワークシート2を分析する。

3.2.1 ワークシート1

この授業の学習到達目標は、（1）生徒はペアワークで協力しあう、（2）パート3の要約を相手に伝える、（3）相手の要約を聞き、パート3の概略を理解する、（4）p.40の写真が何を表しているかを理解する、の4つである。ワークシートの活動が学習到達目標の達成にどのように寄与しているかを考察する。

Warm-upは、教科書の写真を見て、何を思いつくかをペアで言い合う活動である。生徒はこの活動にどれくらい深く取り組めるかは不明であるが、学習到達目標の（1）と（4）を達成するのに役立つ活動だと言える。とくに（4）に大きく関連している。この写真を見て思いつくことを言おうとすることにより、この写真を撮影した人は本当は何を表現したかったのだろうかかと疑問に思う生徒もいるだろう。そういう生徒は教科書本文を読んでみたいと動機づけられると推察される。

Vocabulary 1は、本文の概要理解に不可欠な新語3語の意味を二者択一で選択させる活動である。新語の意味を理解させるという点で、本文理解につながる。その意味で、学習到達目標の（2）（3）（4）の土台を築く活動であると言える。しかしながら、ウォームアップで本文を読みたいという気持ちになった生徒は、この活動が入ることで、読解意欲を忘れてしまうことが危惧される。

First Reading without a dictionaryは、4つのT/F問題で教科書の概要が理解できているかを問う活動である。その意味で、学習到達目標の（2）（3）（4）の土台を築く活動であると言える。Vocabulary 1で概要理解に不可欠な意味を学習しているので、辞書なしでも解答できるように意図されている。

Vocabulary 2は、本文を細部まで理解できるように、Vocabulary 1で扱った以外の新語の意味を調べる活動である。学習到達目標の（2）（3）（4）の達成を助ける活動であると言える。

Second Readingは、A版とB版とで質問内容が異なる活動である。ペアで自分の版に書かれている質問をして、相手は教科書を読んでそれに解答する。学習到達目標の（1）（4）の達成を助ける活動であると言える。10ある質問のうちA版、B版どちらも5つしかワークシートには記載されていないために、のちの口頭要約に十分役立つのか疑問が残る。

Reviewは、S+V+O+C（過去分詞）の文構造の練習である。本時の学習到達目標と直接関連しているとは言えない。

About Ruby Bridgesは、ワークシートの構成のところで述べたように、これは課題を早く終えた生徒向けの追加情報である。学習到達目標とは直接関連しているようには思えない。

このようにワークシート1は、ReviewとAbout Ruby Bridgesを除くと、すべて学習到達目標を達成するための活動であるといえる。

3.2.2 ワークシート2

この授業の学習到達目標は、(1)生徒はペアワークで協力しあう、(2)電気使用についての考えを共有する、(3)マラウイで何が起こったのかを理解する、(4)新語や語句のいくつかを理解する、の4つである。ワークシートの活動が学習到達目標の達成にどのように寄与しているかを分析する。

Warm-up 1と2はどちらも学習到達目標の(1)と(2)を達成しようとする活動である。しかしながら、どちらもペアで30秒あるいは1分間英語で話し続けるように求めているが、これは学習到達目標には挙げられていない。

First Listeningは第1段落だけをCDで聞き、ワークシートに書かれた3文の空欄を補充する課題なので、学習到達目標(3)を達成しようとしている。同様にFirst ReadingはTFによる本文理解なので、学習到達目標(3)の達成を目指している。

Vocabulary 1と2はどちらも学習到達目標(4)を達成しようとしている。

Reading Practiceは音読練習であり、単語や語句の定着に繋がるので、間接的に学習到達目標(4)の達成を目指していると言えるかもしれない。

Second Readingは、Step 1で4つの質問の解答をキーワードで書き込む。Step 2ではペアで主人公について英語で説明する。Step 3で振り返ったあと、Step 4で相手を替えて再び説明する。したがって、マラウイで起こったことへの理解を促すので学習到達目標(3)を達成しようとしているといえる。しかしながら、主人公について英語で口頭で説明することに主眼がある活動であるのに、それは学習到達目標には挙げられていない。

Further Questionは、自分が主人公の立場だったという仮定で英文を書く活動である。したがって、学習到達目標(3)の本文の内容理解が土台になる活動である。しかしながら、この活動の意図は仮定法過去の定着に主眼があるのではないかと考えられる。

このようにワークシート2は、すべての活動が学習到達目標を達成するのに役立つ活動からできているといえるが、Warm-up 1と2やSecond Readingのように学習到達目標にはない活動が主眼となっているものもあり、ワークシートが学習到達目標と綿密に連携しているとはいえない。

3.3 ワークシート1とワークシート2の比較

RQ3は、初任3年目と5年目のワークシートはどのように変化しているかである。この点でワークシートを分析する。3年目と5年目のワークシート項目の変化は、表1の

表1 ワークシート項目の変化

3年目	5年目
Warm-up	Can-Do Goals for This Lesson Warm-up 1 Warm-up 2
Vocabulary 1	First Listening Vocabulary 1
First Reading without a dictionary	First Reading without a dictionary
Vocabulary 2	Vocabulary 2
Second Reading	Reading Practice Second Reading
Review	Further Question
About Ruby Bridges	

ようにまとめられる。

まず類似点について考察する。Warm-up、Vocabulary 1&2、First Reading、Second Readingはワークシート1・ワークシート2のどちらにもある。このうちVocabulary 1&2、First Readingは、授業1と授業2でほとんど変化していない。教科書内容の概要把握に不可欠な単語はVocabulary 1で理解させたあと、First Readingで概要を把握させるという指導手順は3年目と5年目で変化していないことがわかる。

Warm-upとSecond Readingは、活動の名目は同じだが、内容は変化している。すなわち、Warm-upでは教科書の内容について、予測できることをペアで英語で言い合う点、Second Readingでは教科書を読んで英語の質問にペアで解答し合う点は同じである。しかしながら、3年目と5年目で異なっている点も見られる。3年目のワークシート1は、Warm-upもSecond Readingも1回のペアワークで英語のやりとりをするだけである。それに対して、5年目のワークシート2では、1度ペアワークをさせたあと、リフレクション・タイムを設けていて、うまく言えなかったこと、言いたかったが言えなかったことをどう言ったらよかったのかを調べさせている。そのあとペアを替えて2回目のペアワークをさせていることが、異なっている。これは、ペアで教科書の内容を伝えることを重視し、それができるようにするために、リフレクション・タイムを設けて言えなかったことを言えるように準備させ、2回目の取組をさせているという変化である。これは、アウトプットできる内容をより正確に、より多くの情報を伝えられるようにするための措置である。5年目のワークシートは、生徒が英語でより多くのことをより正確に発信できることを目指して作成されていると言うことができる。

つぎに相違点について考察する。ワークシート1には、Review、About Ruby Bridgesという項目があるが、ワークシート2にはない。逆に、First Listening、Reading Practice、Further Questionはワークシート2にはあるが、ワークシート1にはない。

まずワークシート1のみにあるReviewは、「S+V+O+

C（過去分詞）の構文を使えるようになろう！」という指示が示すように、文構造を練習させ、定着させることを目的にしている。3つの例文と4つの並び替え問題から成る。この時間の学習到達目標には挙げられていないがこの文構造を練習することが重要と考えているため、設けられていると推察される。About Ruby Bridgesは、上で述べたように、このパートの主人公についての追加情報である。6枚の写真と188語の英文からなる。課題が早く終わった生徒が、することがなくならないように、追加の英文を提供していると考えられる。

ワークシート2のみにあるFirst Listeningは、教科書の1パラグラフをCDで聞かせ、その概要を捉えさせるものである。ワークシート1では、教科書の内容理解は読解によるもののみであったが、ワークシート2では聴解による内容理解も加わったといえることができる。Reading Practiceは、音読練習の指示である。ワークシート1には音読練習の指示はないが、音読練習そのものは実施していた。しかし、ワークシート2でReading Practiceとして音読練習が明記されることで、その重要性を伝える意図が読み取れる。Further Questionは、「自分が主人公の立場にいたら」という仮定で、仮定法過去の練習をさせるものである。仮定法の練習は、学習到達目標には挙げられていないが、教科書の内容を理解した上でのポスト・リーディング活動として設けられている。

ワークシート1と2の違いに見られる2年半の授業者の変化がいくつかの点で見られる。まず、同じ文法項目を練習させるにしても、ワークシート1ではSVOCの文構造を例文で確認したあと、並び替え問題に解答するという単純な練習であったのに対して、ワークシート2では本文理解にもとづいて自分の意見を表現する活動のなかで、目標とする文法形式を使わせようとしている。これは言語形式をただ覚えさせるのではなく、言語の使用場面や使用目的に即して適切な言語形式を使用できるようにすることを目指した活動と考えることができる。第2に、教科書の内容理解に関しても変化が見られる。ワークシート1では読解による内容理解のみであったが、ワークシート2では1パラグラフのみだがリスニングによる内容理解も含まれるようになった。授業者は最初から英語で授業を行っているので、ワークシート1の時点でも生徒はリスニングの練習を十分受けてはいるが、授業者とは異なる話者の英語を聞き理解しようとすることは、よりバラエティーに富んだ英語の発音に触れることになり、リスニング能力を向上させるものといえる。

RQ3についてまとめると、ワークシート1と2は、ウォームアップ、Vocabulary, First & Second Readingのような教科書の内容を理解させる活動自体は変わらなかったが、その進め方ではステップが細分化されるなどの変化が見られた。また、リスニング活動が取り入れられる、単なる文法練習が言語使用の目的に即した活動に代わるなど、4技能をより実践的に育成するような変化が見られた。

分析の結果、若手英語教師が作成するワークシートは、学習到達目標を達成しようと意図されている。3年目と5

年目では本文の内容理解を助ける活動に大きな変化は見られないが、言語材料を定着させる、それを発表的に使わせる段階に大きな違いがみられた。

まとめると、RQ1のワークシートの構成については、初任3年目のワークシート1は、主に教科書の内容理解を促すような活動が中心に作られているのに対し、5年目のワークシート2は、内容理解に留まらず、言語の産出を促す活動も多く取り入れている。

RQ2の目標との関係については、ワークシート1は、ほぼすべて目標を達成するための活動であるといえる。ワークシート2は、すべての活動が目標を達成するのに役立つ活動からできているといえるが、Warm-up 1と2やSecond Readingのように目標にはない活動が主眼となっているものもあり、ワークシートが目標と綿密に連携しているとはいえない。

RQ3のワークシートの変化については、ワークシート1と2は教科書の内容を理解させる活動自体は変わらなかったが、その進め方ではステップが細分化されるなどの変化が見られた。また、リスニング活動が取り入れられる、単なる文法練習が言語使用の目的に即した活動に代わるなど、4技能をより実践的に育成するような変化が見られた。

このようなワークシートの変化から、若手教師が目標達成のために、指導手順や活動に工夫を加え、改善していることが読み取れる。

4. 考察と結論

3つのRQで、ワークシートの内容が変わらない部分と変わった部分、学習到達目標に沿ったものかどうかを見てきた。まず、ワークシートの内容の変化について考察する。前述のように授業者は、3年間で10回の授業研究を行い、指導内容、指導技術などを向上させ、英語教師として成長してきた（淡路, 2018; 小菅・小菅, 2018; 高木, 2018; 望月, 2018; 若手, 2018）。この成長を促したものは、日々の授業を振り返り、うまくいったこととうまくいかなかったことについて、省察したことである。また、同僚との意見交換も成長を促したものと考えられる。さらに、授業研究と研究協議会での意見を積極的に取り入れ、試したことも成長を支えたことであろう。このような省察と同僚との意見交換、授業研究協議会での提案が、ワークシートの変化に影響を与えたと考えられる。すなわち、授業者が生徒の学習を促進し、学習目標の達成に有効で不可欠と考える活動は、変えずにワークシートに残したと考えられる。それに対して、振り返りや同僚との意見交換で、あまり効果的でないと考えた活動は取りやめ、より良いと考えるものへと修正したのである。その結果、ウォームアップやSecond Readingでのペアワークは1回行ったあと、リフレクション・タイムを取り、言えなかったこと、間違えたことを調べたあとで、ペアを替えてもう一度行うような活動へと変化させている。授業者は、日々の授業内、授業後の省察によって、活動の学習への効果について考えた結果、ワークシートの内容を維持したり、入れ替えたり、発展さ

せてきたと考えられる。

第2に、ワークシートの内容と学習到達目標との関係について考察する。ワークシートの内容は、おおむね学習到達目標と関連するものであったが、ワークシート2は学習到達目標にない活動が見られた。これには2つの原因が考えられる。1つは、学習到達目標を吟味しなかったためという原因、もう1つは、単に学習到達目標として明記しなかったというものである。ワークシート2では、Warm-up 1・2でペアで30秒あるいは1分間英語で話し続ける活動、Second Readingで主人公について英語で口頭で説明する活動、Further Questionで「自分が主人公の立場だったら」という仮定で英文を書く活動をさせている。これらはいずれも学習到達目標として挙げられていない。学習到達目標として吟味しなかったという説ならば、授業者はこのような活動をさせるが、生徒がそれができるように指導することまでは考えていなかったことになる。それに対して、ただ学習到達目標として明記しなかっただけという説であれば、授業者は生徒がこれらができるようになることを意図していたが、学習到達目標としては明記しなかったものである。リフレクションタイムを作り、ペアワークを2回させていることを考えれば、後者の説をとるのが自然であろう。授業者は、英語教師として指導内容・指導技術を向上させてきているが、学習到達目標との関係で活動を作っていくことに関しては改善の余地があるかもしれない。

本研究は、若手英語教師が作成するワークシートを分析し、2年半の教授経験がワークシートの内容にどのような変化をもたらしたかを調査した。ワークシートの変化は、授業者の教師としての成長の表れであり、日々授業を振り返り、同僚と意見交換する実践が成長を促したと推察できる。

参考文献

- 赤松信彦（編著）（2018）『英語指導法理論と実践 21世紀型英語教育の探究』英宝社。
- 淡路佳昌（2018）「指導技術に関する付箋指摘に見られる変化と教師の成長過程」望月正道（編）『初任英語教員の教科指導の向上と学校での問題克服を支援するシステムの提案』（科研研究成果報告書15K02791），36-46。
- 岡秀夫（編著）（2011）『グローバル時代の英語教育—新しい英語科教育法—』成美堂。
- 岡田圭子・ブレンダ・ハヤシ・嶋林昭治・江原美明（2015）『基礎から学ぶ英語科教育法』松柏社。
- 木村松雄（編著）（2011）『新版英語科教育法 小中高の連携—EGPからESPへ』学文社。
- JACET SLA研究会（編著）（2013）『第二言語習得と英語科教育法』開拓社。
- 小菅敦子・小菅和也（2018）「付箋を用いた英語授業研究協議—若手英語教師の成長—」『武蔵野教育学論集第4号』，81-89。
- JACET教育問題研究会（編）（2012）『新しい時代の英語

科教育の基礎と実践 成長する英語教師を目指して』三修社。

- 高木亜希子（2018）「若手英語教師による学びと成長の軌跡—授業研究協議会後のインタビュー分析に基づく教師の認知」JACET教育問題研究会会誌『言語教師教育』Vol.5 No.1，47-67。
- 土屋澄男（編著）（2011）『新編英語科教育法入門』研究社。
- 本多敏幸（2009）『英語力がぐんぐん伸びる！コミュニケーション13の帯活動&ワークシート』明治図書。
- 二ノ宮靖史・二ノ宮寛子（2010）「言語教育におけるワークシートの有効活用：大学英語を例として」『國學院大學北海道短期大学部紀要』27巻 pp.23-40。
- 村野井仁・渡部良典・尾関直子・富田祐一（2012）『統合的英語科教育法』成美堂。
- 望月昭彦（編著）（2010）『改訂版新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店。
- 望月正道（2018）「若手教師の成長—3年間の授業研究協議の対応分析」『麗澤レビュー』第24号，21-30。
- 若有保彦（2018）「若手英語教師の成長過程—教師と生徒のインタラクションの分析を通して—」『東北英語教育学会紀要』第38号，49-63。
- 渡邊信治（2007）「訳読をしないリーディング指導（高3・1学期）」樋口忠彦・緑川日出子・高橋一幸（編著，2007）『すぐれた英語授業実践 よりよい授業づくりのために』（pp.188-198）大修館書店。

資料 1

7-7シート1
CE #3-3 Class No. Name _____ Date _____

(A) CE #3-

Lesson 3 Norman Rockwell: An Artist of the People, for the People Part 3

Warm-up You learned about Jackie Robinson last year. The girl in the painting on page 40 is black like Jackie. This picture is called *The Problem We All Live With*. What do you think of when you are looking at this picture? Write as much as you can and talk in pairs.

You	Your partner's name:
-----	----------------------

Vocabulary 1 Choose the right meanings for the underlined words.

- President Obama was escorted by lots of police officers to the airport.
 - to go somewhere with someone
 - to take someone somewhere by protecting or guarding them
- We wear sunglasses to protect our eyes from the sun.
 - to keep someone or something safe
 - to put someone or something in danger
- Jackie Robinson was suffering from segregation.
 - escort(vt.)
 - protect~from...(See Page 41)
 - segregation(n.)

First Reading without a dictionary T/F quiz
If the answer is F, underline the false part, and correct it.

- These four men in the painting are teachers. T / F
- These four men are protecting Ruby and they are taking her to school. T / F
- Rockwell focuses on these four men by not showing their faces. T / F
- Rockwell shows us his own feelings about segregation through this black girl's expression. T / F

Vocabulary 2

1. Pronounce the new words on page 40 and 41.
2. Let's look up these words and phrases in your dictionary.

* Part of Speech 品詞: (n.) noun 名詞 (v.) verb 動詞 (adj.) adjective 形容詞 (adv.) adverb 副詞 (prep.) preposition 前置詞 (conj.) conjunction 接続詞


Word	Part of speech	Phrase or Sentence	Meaning
<input type="checkbox"/> federal	adj.	The government in Washington D.C. is called the federal government.	
<input type="checkbox"/> detail	n.		
<input type="checkbox"/> state	vt.	Please state your name and address.	
<input type="checkbox"/> integration ↔ segregation	n.	racial integration ↔ racial segregation	
<input type="checkbox"/> isolation	n.		
<input type="checkbox"/> determination determine	n.	She shows great determination to learn English.	
<input type="checkbox"/> pillar	n.		
<input type="checkbox"/> violence violent			
<input type="checkbox"/> mob			
<input type="checkbox"/> smash	vt.		
<input type="checkbox"/> fade	vi.	The word NIGGER is fading away.	

Score /

★Remember the following words, too!

*New Orleans 米国ルイジアナ州にある都市
*most likely おそらく *protection(n.) - protect(v.)


*KKK= Ku Klux Klan 南北戦争後に結成された黒人などを威圧する秘密結社



CE #3-3 Class No. Name _____ Date _____

(A) CE #3-3

Second Reading Answer the questions. Explain who (1) and (2) are.



- Who is the girl in *The Problem that We All Live With*?
- What details does this picture show about (2)?
- What can we see about (1)? Say three things.
- What are (1) protecting her from?
- Half a century later, what does this picture show us?

Review S+ V+ O + C (過去分詞) の構文を使えるようになろう! [DUAL SCOPE p.p.214-222]

(p.41) We see a tomato smashed against the wall.





[e.g.] 1. I had to shout to make myself heard.
2. I had my bicycle stolen, so I came to school on foot today.
3. The accident left me seriously hurt.

[Exercises] Put the words into correct order to make sense.

- [understood / make / I / Chinese / couldn't / in / myself] when I spoke to Mr. Kim.
→
- [checked / I / the dentist / teeth / by / my / had] yesterday.
→
- [heard / name / I / my / called] in the crowd.
→
- [his / broken / the dog / leg / had] in the accident.
→

About Ruby Bridges:

In November 1960, six-year-old Ruby Bridges became the first African American child to integrate an elementary school. The school's name was William Frantz Elementary School. Until she came, it didn't allow African-American students to be educated there. Although she only lived a few blocks from the school in New Orleans, Louisiana, US marshals had to escort Ruby because of angry mobs that gathered in front of the school. For an entire year, she was the only student in her class since white parents pulled their children from the school in protest. Fortunately, Ruby continued to move into high school and founded the **Ruby Bridges Foundation** when she was an adult. She wrote about her experiences in her book **THROUGH MY EYES**.

Ruby Nell Bridges (1954-present) was born on September 8, 1954 in Tybertown, Mississippi. She was born in a cabin, and was the oldest sibling in the family. The family had a total of 8 siblings.

President Obama with Ruby Bridges viewing the painting in the White House in 2011.
Rockwell's "The Problem We All Live With," hanging in a West Wing hallway near the Oval Office, July 15, 2011

Ruby Bridges

Movie

Elementary School

資料2

Class No. 7-7シート2 Name _____ Date _____


Lesson 8 "The Boy Who Harnessed the Wind" Overview - Part 1

CAN-DO Goals for This Lesson


- R 登場人物の気持ちや行動の理由を、文章に則してとらえることができる
登場人物の置かれた場面の状況を的確に読み取り、行動とその理由を関連付けて読み込もう。
- S つながりを示す語句や言い換え表現を効果的に用いることができる
内容を論理的に構成し、つなぎ言葉を効果的に用いたり、伝わるように言い換えたりすることで、相手に理解しやすいように発言しよう。
- PA うまく表現できないことがあっても、既知の語句や表現を用いるなどして表現し続けることができる
今まで学んだ語句や文法を活用して、積極的にコミュニケーション活動に励もう。

Warm-up 1


Step 1 Look at the pictures below. These are power plants to make electricity. What kind of energy do they use? Can you think of any other ways to get energy?

A 

()

B 

()

C 

()

D Other ways

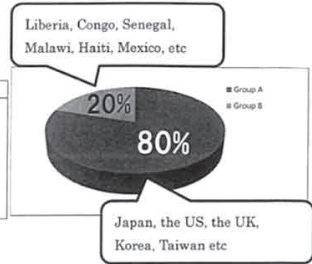
Step 2 Keep talking for 30 seconds in pairs.

I think A uses ____, B uses ____, and C uses ____.
In addition, we can use ____ to get energy.

Warm-up 2

Question (1) What do you think the chart shows?
Step 1 Write key words to answer.

Group A (80%)	Group B (20%)



Step 2 Share ideas in pairs.

Question (2)

Step 1 Write key words to answer.

Step 2 Keep talking in pairs for one minute.

Step 3 Reflection time

Step 4 Change partners.

Step 5

Could you keep talking for one minute?

Yes! I will try harder next time

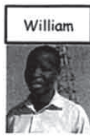


Lesson 8 Part 1

First Listening DON'T LOOK AT THE PASSAGE!

Listen to the 1st paragraph and fill in the blanks.

- The speaker worked so hard to make the ().
- Some of the people thought he was ().
Why? ↑
- He tried to make () from ().



Vocabulary 1 Choose the correct meaning for each underlined part.

- A fire broke out at the house yesterday.
a. something started suddenly
b. something finished suddenly
- The famine caused a terrible problem in the country. Many people died of hunger.
a. a situation with lack of food over a long period
b. a situation with lots of food over a long period
- He blamed me for the accident.
a. to thank something or someone for something good
b. to say something or someone is responsible for something bad

First Reading

DO NOT use a dictionary here!

Step 1 [TF Quiz] Read the 2nd ~ 4th paragraphs and write T or F.

- (1) People in Malawi had to stop having breakfast. ()
- (2) No one died when the famine broke out there. ()
- (3) After the famine, William had to work for his family. ()
- (4) William thought that they needed a watering system. ()

Vocabulary 2 (n.) noun:名詞 (v.) verb:動詞 (adj.) adjective:形容詞 (adv.) adverb:副詞 (prep.) preposition:前置詞 (conj.) conjunction:接続詞

Words	POS	Meaning	Phrase or Sentence

Phrases	Meaning
bring up A / bring A up	to care for a child and teach how to behave
stay away from A	to not go near A, keep away from A

Reading Practice Practice reading this part aloud.

Second Reading

Step 1 Answer these questions. Write only key words. (Paragraph 2-4)

1. Where is he from?	
2. What happened in December 2000 in his country?	
3. What determined their life in Malawi?	
4. How did he feel about the life like this?	

Step 2 Using the information above, introduce William to your partner. If you need, you can add other information.

Step 3 Reflection time:

Step 4 Change partners and try it again.

Further Question William said he could not blame his father. Imagine if you were in his situation, would you blame your father or not? And why?

ex: If I were him, I would not blame my father because I know he loves me very much.
If I were him, I (would / would not) blame my father because _____